

前世紀で繰り広げられた、際限のない拡大再生産と資源の使い捨てによる膨大な浪費は、私たちの生活のある面で便利にはしましたが、次世代にもそのまま引き継いで行けるような真の豊かさをもたらすことはありませんでした。私たちはもうそのことに気づいてしまっています。それでは、私たちの生活はこれからどのように変わっていくのか、変えていけばよいのでしょうか。その答えの一つとして、私たちは「使いこなす・住みこなす」生活をめざそうと思います。

ところで、そんな生活の仕方はどのようにしたら実現できるのでしょうか。今回の企画「まちとすまいの集い」では、環境や心理の評価、建築や都市の計画、構造や材料の科学の領域で、先端的な研究が続けてきている専門家が「使いこなす・住みこなす」生活へ向けて、それぞれの立場から今後を展望します。

第12回 まちとすまいの集い

使いこなす・住みこなす

—都市、建築、そして資源—

主 催 名古屋大学大学院環境学研究科 都市環境学専攻 建築学教室

日 時 2010年 10月 30日(土) 13:20~16:30

場 所 名古屋大学環境総合館1階レクチャーホール

参加費 無料

後 援 (社)日本建築学会 東海支部

(社)日本建築家協会 東海支部

(社)愛知建築士会

(財)名古屋都市整備公社 名古屋都市センター

(社)空気調和・衛生工学会 中部支部

(社)建築設備技術者協会 中部支部

(社)日本建築構造技術者協会 中部支部

なごや環境大学

【開催概要】

日時 2010年10月30日(土) 13:20～16:30
 場所 名古屋大学環境総合館 1階レクチャーホール
 参加費 無料(定員100名)

【プログラム】

13:20 主催者挨拶(建築学教室主任 奥宮正哉)
 13:30 講演① 久野 覚
 「地球環境時代、どうやって暮らして行くか」
 14:20 講演② 恒川 和久
 「大学キャンパスからサステナブルな都市・建築へ」
 15:10 休憩
 15:20 講演③ 勅使川原 正臣
 「よみがえれ 既存建築物」
 16:10 全体の質疑応答
 16:30 閉会挨拶

なお、12:30より各種展示、環境シミュレーションスタジオ、地域防災交流ホール(4階)をご覧ください。

【会場案内】



【お申し込み方法】

必要事項(お名前、ご所属、ご住所、TEL/FAX/E-mail)を記入の上、下記までE-mail、FAX、または郵送にてお申込み下さい。
 会場準備の関係上、10月27日(水)締切とさせていただきます。

【お申込み・お問い合わせ先】

名古屋大学建築学教室
 まちとすまいの集い事務局(担当:田村、岡本)
 〒464-8603 名古屋市千種区不老町B3-1(652)
 TEL:052-789-5233 FAX:052-789-3773

【講演概要】

①「地球環境時代、どうやって暮らして行くか」

久野 覚(くの さとる)

専門分野:建築環境工学・環境心理学

20世紀の技術の進歩により、エネルギーを使えば少なくとも室内環境に関して、ほぼ快適な環境を作り出すことができるようになってきました。しかしながら、21世紀になり地球環境が危ぶまれています。それではどうすればいいのでしょうか。快適性と省エネルギーをどのように両立させていけばいいのか、楽しさとか豊かさとは何か、を考えてみたいと思います。全ての場所が必ずしも快適でなくとも、人間が必要に応じて場所を移動する、そうしたちょっとしたことでかなりエネルギーが節約できるはずです。



②「大学キャンパスからサステナブルな都市・建築へ」

恒川 和久(つねかわ かずひさ)

専門分野:建築計画、地域計画、建築設計、ファシリティマネジメント、キャンパス計画

わたしたちは、昨年度末「名古屋大学キャンパスマスタープラン2010」を策定し、名古屋大学キャンパスの30年後のビジョンを示しました。キャンパスは都市の縮図であり、長く使い続けられるサステナブルな都市のモデルであるべきだと考えています。この講演では、名古屋大学キャンパスやこの周辺地域を事例にしながら、社会的・経済的・環境的にサステナブルな都市や建築のあり方について、特に建築を長期間にわたって使いこなすためのファシリティマネジメントの取り組みについて紹介しながら、お話したいと思います。



③「よみがえれ 既存建築物」

勅使川原 正臣(てしがわら まさおみ)

専門分野:建築構造、鉄筋コンクリート構造、耐震構造、スマート構造、構造モニタリング

地球環境、廃棄物処理、少子化の問題が最近多く取り上げられています。本来、建築物においても、建てては壊す、壊しては建てるから、あるものを有効活用する、よいものを長く大切に使うことが重要です。国土交通省でも2009年度から「長期優良住宅」の制度を創設し、長持ちする住宅の普及促進、既存住宅の流通促進を目指しています。本講演では、既存ストックを有効活用のために必要な多くの要素(社会制度、設計・施工技術など)のうち、通常のリフォーム以上の、わが国では不可欠な耐震改修も含む既存ストックの有効活用を可能にする技術の現状を紹介します。住宅作りに一生を捧げるのではなく、成熟社会を満喫するために。



NEWS! 建築学教室が入居予定の新校舎、建設中!



現在、鉄骨造7階建の新校舎が工学部4号館跡地に建設中です。益川・小林両先生のノーベル賞記念展示スペースの他、全館LED照明とするなど環境配慮・省エネ対応技術が盛り込まれています。完成は2011年3月予定です。